

卒業式の祝辞

卒業式の来賓（お客様のこと）の祝辞（あいさつのこと）と言えば、小学生の皆さんにとっては「難しい話、長い話」という印象があるかもしれませんね。実際、私が小学生だった頃、卒業式の来賓の方々のありがたいお言葉は、「じっと終わるのを耐えて待つ話」だったような気がします。私は、大学を卒業してすぐ教員になりましたので、考えてみますと、これまでの人生、物心ついてからずっと（数年を除き）毎年、毎年、卒業式の来賓の祝辞を聞き続けているということになります。その数ある祝辞の中で、ある方の祝辞だけは、ずいぶん前のことになるのですが、決して忘れられない内容でした。これからその全てを書きますが、その時にメモを取ったわけではありません。私の頭の中から決して離れない話だったのです。以下は、その方のお話の全内容です。6年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私はPTA会長をしておりますが、仕事は大工です。人前で話すのは苦手で、ましてや卒業式で皆さんに何を話したらいいのか分からず、広告の裏に書いては丸めて捨てることを繰り返し、結局、今朝まで話すことが決まりませんでした。ですから、何か、かっこいいことを言わず、私の仕事である「大工の話」をすることにしました。私は、子どもの頃から物を作るのが好きで、大工の仕事をしたいと思っていました。一方、私の両親は、高校、大学に行かせたいと思っていたのです。両親の強い勧めもあって、私は大学を卒業しました。両親は、私が、きっと会社や役所に就職するものだと思い切っていたのです。しかし、私は大工になりたいという夢をどうしてもあきらめることができませんでした。私は、大学卒業前に、両親に、「大学まで行かせてもらったが、俺は、どうしても大工になりたい。大工にならせてください。」と、話をしました。そして、大工の仕事の素晴らしさについて心を込めて説明したのです。両親は、「何のために大学までやったと思ってるのか、今さら何を言っている！バカなことを言うな。」と、怒鳴りつけましたが、私の気持ちは全く変わらなかったのです。両親の反対を押し切って、自分1人である大工さんの弟子となり、23歳から修業を始めて、今は「一人頭領（一人で大工の仕事を請け負う）」として大工をさせていただいています。家は、一つ一つ違っています。同じように見えても、全く同じ家は軒ありません。皆さんと同じですね。どの家にも、それぞれの良さ、個性というのがあります。そして、みんな違っていても大切な物は同じです。それは基礎工事です。これをいいかげんにすると、どんな立派な家も年月が経つと、また災害などがあると倒れてしまいます。これも皆さんと同じですね。皆さんは、今、人間としての基礎を作っている時です。この時をいい加減に過ごしていると、将来、見かけだけよい人間になってしまい、何かあればすぐに倒れてしまうのです。だから今は、しっかり人間としての基礎を学んでください。二階建ての家、一階建ての家、テラスのある家、畳の部屋、洋室、階段の位置、台所、お風呂など、私は、そこに住む人の話を聞き、その家族が生活している様子を想像し、「この家は、子どもがたくさんいるので、料理をしながら子どもの姿を……。この家は、足が痛いおばあちゃんが困らないように……。」などと考えながら家を建てていくのです。それが楽しくて仕方ないのです。そして、完成した家を見て、喜んでいただけた顔が、私の

次の力となるのです。だから、どんな家が一番いいのか、どんな家がかっこいいのか、どんな家が立派なのかなんていうことは決められないのです。そこに住む人が、住みやすく安心できてくつろぐことができる家が、最高の家ということです。これも、きっと皆さんのよさ、人としての価値と同じなのですね。 保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。非常に失礼かもしれませんが、保護者の皆様に一つだけお願いがあります。私が大工になりたいと打ち明けた時、私は両親にただ一言、こう言って欲しかったのです。「よくぞ自分の道を決めたな！がんばれ！」と。ですから、もし将来お子様が真剣に自分の進みたい道を決めた時には、それが皆様の気持ちとは違っていても、「よくぞ決心したな、がんばれ！」と言ってあげていただきたい、それだけをお願いして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。（しばらくの間、拍手が鳴り止みませんでした。保護者の皆様が拍手を止めなかったので・・・。）